

2025 年度日本消化器外科学会賞受賞講演

オンデマンド配信 オンライン視聴のみ

一鏡一刀に込めた志～胃癌手術にささげた 40 年～

宇山一朗¹

1: 藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学講座

外科医としての歩みを始めた当初、私は開腹手術による拡大リンパ節郭清を自らの使命と考え、根治性を追求する胃癌外科に没頭してきました。しかし 1990 年代初頭、腹腔鏡手術という革新的技術と出会い、その低侵襲性に大きな可能性を感じた私は、以後、内視鏡手術を軸とした新たな外科の在り方を模索するようになりました。当時、腹腔鏡下での D2 リンパ節郭清や体腔内再建術は不可能とされていましたが、多くの困難と挑戦の末、これらを日本で初めて成功に導き、腹腔鏡下胃全摘術の国内初の実現にも貢献しました。そして outermost layer oriented approach というコンセプトを提唱し、腹腔鏡リンパ節郭清手技の確立に貢献してきました。さらに 2009 年からはロボット手術に取り組みダビンチ軸理論、ダブルバイポーラ法など、独自の手術手技を構築するとともに、臨床試験を通じてロボット支援手術の有用性を科学的に証明しました。とくに腹腔鏡胃癌手術に対するロボット手術の優位性を実証し、保険収載やロボット加算の獲得にも深く関与することができました。これら一連の取り組みは、すべて「患者にとってやさしく、確実で、安全な手術を届けたい」という強い志に基づくものです。現在は、これまで積み重ねてきた経験と知見を次世代に伝承すべく、質の高い、効率的な教育システムの確立に尽力しており、若手外科医の育成を通じて、日本の胃癌外科のさらなる発展に貢献したいと考えております。

▲ TOP